宮城民医連
東北関東大震災

災害対策本部ニュース

ニュース =第7号=
発行日 2011年3月17日
発行 宮城民医連

震災の日に生まれた命、感謝できる子に育って

坂病院 産科

震災の3月11日に生まれたMくん

震災の日に、坂総合病院産科で、新たに生まれた命があった。3月11日23時44分、塩釜市舟入のO．MさんとO．Hさんの第3子、Mくんだ。体重は3422g。

この日O．Mさんは坂病院を受診したが、「まだですね」とのこと。健康な赤ちゃんの出産を願って、塩釜神社の 202 段の石段を登り、塩釜駅で地震にあった。直ちに塩釜3中の避難所に向かった。保育園にいる 2 人の子どものことが心配になり、保育園に電話したらおじいさんが迎えに行ったとのこと。無事を聞いて安心したせいか産気づき、避難所から坂病院に。O．Mさんは、こんなに大きな地震で命があってよかった。健康第一に家族や周りの人に感謝できる子供に育ってほしい。いろんな人に助けてもらった命だからと話してくれた。Mくんの名前は、お父さんとお母さんから一文字ずつとったもの。

大変な日に生まれたのだから、大きくなったらこの日のことを教えてあげたいという。

事業所の状況

インスリンを7日間うっていない方も

松島海岸診療所

3月 17 日、新居浜協立病院医師谷本浩二、青森民医連医師熊谷真史、三重民医連看護師近澤侑加、山形民医連看護師寒河江よしこ、小豆沢病院事務西坂昌美、小澤敦之、十勝勤医協事務片桐正晃、オホーツク勤医協事務高橋正和、川森雅子さんは、松島海岸診療所の応援と手樽地区交流センターなど 5 か所の避難所周りをしました。初めて医師が入った避難所が何か所かありました。

薬の相談を受ける谷本医師（避難所で）

散乱したカルテの様子（松島海岸診療所）

「内服薬が切れる方が多く、中にはインスリンをうっているが地震以降 7 日間うっていない方、津波で処方箋が流され内容がわからない」（熊谷医師）

「直近のカルテを出せるように、棚に揃えて並べた。こんな状況にあっても職員の皆さんが団結して診療にあたられている姿に感動しました。津波は天罰とぬかした石原都知事が許せません。明日も頑張ります」（西坂昌美）

松島海岸診療所は、今回の津波で床上浸水しましたが、3 月 14 日から 2 階で、地域の要求に応えるためいち早く診療を開始しました。

県南医療生協

薬外来対応で診察開始

施設の状況では、駐車場の一部が陥没、ライフラインは電気と水が止まっている。職員は全員無事です。北條所長の自宅マンションは、（八乙女）使用不可で、クリニック近くのアパートに移動。現在薬外来対応で診察中。

全国支援 3月16日午後5時現在 累計26県連から316人

支援者のため坂病院→東京駅直行バス運行

3 月 18 日（金）9 時 30 分出発
3 月 19 日（土）9 時 30 分出発
3 月 20 日（日）9 時 30 分出発
3 月 21 日（月）9 時 30 分出発
3 月 22 日（火）9 時 30 分出発
3 月 23 日（水）9 時 30 分出発
3 月 24 日（木）9 時 30 分出発
3 月 25 日（金）9 時 30 分出発
3 月 26 日（土）9 時 30 分出発

利用希望者は災害対策本部まで